北海道の山

２０１５年7月１４日～２４日
加藤隆一

７月１４日（火）移動日（横浜～羽田～稚内～鴛泊～利尻北麓野営場）

（フェリーから利尻島を望む）

利尻岳
７月１５日（水）　曇後雨後曇
利尻北麓野営場５：４５　長官山９：００　避難小屋９：２０　利尻岳頂上１１：００～１１：３０
利尻北麓野営場１４：３０　民宿１５：００
　夜来の雨が止み明るくなったので出発する。しかし歩いて間もなく雨となる。しかたなく雨具をつける。登山道にはみ出した灌木に頭をぶつけること何回となく繰り返す。先に出発したパーティは何組か引き返すのに出会う。少し不安であったが登り続ける。登山道に沿って流水の通り道となっていた。
　長官山まで来ると雨からガスに変わった。ここより避難小屋はすぐで中には数名が食事等をしていた。このころより雲が薄くなり時おり薄日が差すようになる。登山道はこのあたりから深くえぐられ始める。懸命に整備しているようであるが火山特有の崩れやすい地層のため至るところガレ場となっている。
沓形コースが合流するとひと踏ん張りで頂上はすぐであった。
　憧れの利尻岳頂上でしばし景色を楽しむ。上空は薄い雲で遠くまで雲海となっているが見通しが良いほうだろう。
　下山は登ってきたコースを引き返し、民宿で寛ぐ。

（二合目展望台）

（長官山）

（利尻避難小屋）

（頂上方向を望む）

（沓形コース合流点）

（お花畑）

（片側が崩壊している登山道）

（頂上から延びる稜線）

（深くえぐれた登山道）

（崩壊した谷筋）

（利尻岳頂上到着）

（頂上直下のロウソク岩）

７月１６日（木）移動日（鴛泊～稚内～上湧別道の駅）

（フェリーで利尻島を後にする）

７月１７日（金）移動日（上湧別道の駅～岩尾別温泉・木下小屋）

（羅臼連山を望む）

羅臼岳

７月１８（土）晴

岩尾別温泉・木下小屋４：３０　オホーツク展望台５：１０　弥三吉水６：００　大雪渓７：１５

羅臼平８：００　羅臼岳頂上９：１５～９：４５　木下小屋１３：００

　早朝出発する。既に２～３０人以上は出発しただろうか？さすが連休初日で人気のコースだ。後続もまだまだいるだろう。登山者が大勢なので少しヒグマとの遭遇の不安は薄らぐがカーベルとホイッスルをしっかりと身につける。

小屋脇から登りはじめオホーツク展望台まで急登だ。展望台は樹林帯の中で展望は良くない。これから緩やかな登りだ。大雪渓の取り付きで軽アイゼンを付ける。登るにつれ振り返ると雪渓の先にオホーツクが広がり高度感がある。雪渓が終わると羅臼平まではすぐだ。ここで小休止。これから目指す羅臼岳が良く見える。また硫黄岳へと続く峰々も望まれる。

羅臼平からは低灌木帯でやがて岩がごろごろした岩稜帯となり、既に登頂を終えた多くの人達とあいさつを交わしながら登る。

やがて憧れの羅臼岳の頂上に到着。頂上からは左右に海が望まれる。しかも北方領土（国後島）が目の前だ。しばらく休憩する。続々と後続者が来るが、頂上が意外に広い。

下山は登ってきたコースを引き返す。木下小屋の温泉で汗を流した。
その後、カムイワッカの滝や知床五湖を見て、ウトロの野営場で一泊した。

（木下小屋、露店風呂があり良い感じだ）

（急登を一気の登るとオホーツク展望台だ）

（オホーツク展望台からオホーツク海を望む）

（ヒグマ注意の看板、ドキドキだ）

（極楽平、ヒグマが出そうでヒヤヒヤ）

（大雪渓から振り返る、先はオホーツク海）

（羅臼平から羅臼岳を望む）

（羅臼平から硫黄岳方向を望む）

（羅臼平に設置してあるフードロッカー）

（ついに来ました羅臼岳頂上）

（羅臼岳頂上から斜里岳方向を望む）

（羅臼岳頂上から北方領土の国後島を望む）

（知床五湖から羅臼岳連山を望む。左端が硫黄岳、右端が羅臼岳）

（カムイワッカの滝）

７月１９日（日）移動日（ウトロ野営場～知床峠～清岳荘）

（清里町から斜里岳を望む）

斜里岳

７月２０日（月）快晴

清岳荘４：５０　下二股５：４０　上二股７：１０　馬ノ背７：４５　斜里岳頂上８：１０～４０

馬ノ背９：００　上二股９：２０　熊見峠１０：０５　清岳荘１１：４５

　居心地の良い清岳荘を早朝に出発する。はじめは緩やかな登り道から林道に入り林道終点から沢筋に入る。沢伝いに飛んだり跳ねたり右に行ったり左に行ったり忙しい。下二股から滝沿いに登る旧道コースをたどる。このあたりから大滝が連続する。たいがい捲き道がついており間違えなければ安全だ。上二股からは源頭のような沢筋を登るとやがて馬ノ背に着く。

　馬ノ背から小ピークを越えてやがて斜里岳頂上に到着。快晴の雲一つない風景を楽しむ。オホーツク海、

斜里町・清里町の大地の黄色の麦畑、ビート畑やジャガイモ畑の緑などパッチワークのように広がる。

下山は上二股から新道に入る。途中あまり踏み跡が少ない竜神池に立ち寄る。数メートルの池だが、きれいな水が湧き出している。元の新道へ戻り歩きやすい低灌木帯を尾根通しにいくと熊見峠だ。ここからは急な下りになる。やがて下二股に出て元来た道に戻り清岳荘へもどった。

その後、オンネトー野営場へ移動した。

（清潔で素敵な清岳荘）

（清岳荘から清里町を望む）

（清岳荘から約 1 時間程歩くと下二股だ）

（いよいよ滝が現れる）

（万丈の滝）

（上部の滝）

（上二股）

（馬ノ背に到着）　（馬ノ背から斜里岳頂上を望む）

（ついに斜里岳頂上だ）　（羅臼岳方向を望む）

（羅臼岳から清里町方向を望む）

（下りに使用した新道沿いの竜神の池、澄んだ水が湧き出している。）

（熊見峠方向を望む）

（熊見峠、ここから急な下りとなり下二股に至る）

雌阿寒岳

７月２１日（火）　晴

オンネトー野営場５：５０　雌阿寒岳温泉６：２０　五合目８：００　雌阿寒岳頂上９：１０～４０

阿寒富士１０：５０～１１：１５　オンネトー野営場１２：５５　雌阿寒岳温泉１４：００

阿寒湖野営場１６：００

　オンネトー野営場から雌阿寒岳温泉まで車で行き、ここから登り出す。アカエゾマツの樹林帯を快適にいく。四～五合目の急登を行くとやがてオンネトー湖が望め視界も広がる。

　さらに火山特有の砂利砂地を行くと火口縁に出て火山の雄大な眺めとなる。雌阿寒岳のピークからは素晴らしい眺めだ、巨大な火口の先には阿寒湖や雄阿寒岳が望める。

　ここより阿寒富士を目指す。一旦、コルに降りて阿寒富士を登り始める。富士山の登りのようにジグザグに登っていく。ここの頂上からの眺めも素晴らしい。しばし風景を堪能しコルまで引き換えし、オンネトー野営場へと下山した。オンネトー野営場から雌阿寒岳温泉へ引き返した。

（雌阿寒岳温泉と登山口）

（足寄町方向の眺め）

（オンネトー湖を望む）

（雌阿寒岳頂上方向）

（最後の急登）

（雌阿寒岳の縁に出る）

（雌阿寒岳頂上）

（阿寒富士を望む）

（阿寒湖を背景に自撮）

（雌阿寒岳火口内の青沼）

（阿寒富士へ向かう）

（コマクサに出会う）

（阿寒富士で自撮）

（阿寒富士から雌阿寒岳を望む）

（阿寒富士から阿寒湖と雄阿寒岳を望む）

（オンネトー湖へ戻る）

７月２２日（水）雨のため停滞、観光（阿寒湖野営場～民宿）

雄阿寒岳
７月２３日（木）曇
民宿５：００　雄阿寒岳登山口５：２０　五合目８：０５　雄阿寒岳頂上９：１０～４０
登山口１２：１０
　民宿から登山口まで車で行く。太郎湖、次郎湖の脇を通り樹林の中の急登を行く。
三合目～五合目が急登で苦しい所だ。やがて登りも緩やかになってくると八合目の旧気象観測所跡までくる。
　九合目から最後の急登を行くと頂上に到着。頂上は一人占めだがあいにく視界は良くない。
時々雲の切れ間から姿を現す山々の風景を楽しむ。
　下山は登りと同じコースを引き返した。
その後、網走湖畔のホテルに入った。

（雄阿寒岳登山口）

（振り返ると阿寒湖が見える）

（八合目の気象観測所跡）

(雄阿寒岳頂上が見える)

(ここまで来ると頂上はすぐだ)

（雄阿寒岳頂上で自撮）

（登山口の太郎湖に戻る）

７月２４日（金）移動日（網走湖荘～女満別空港～羽田～横浜）